

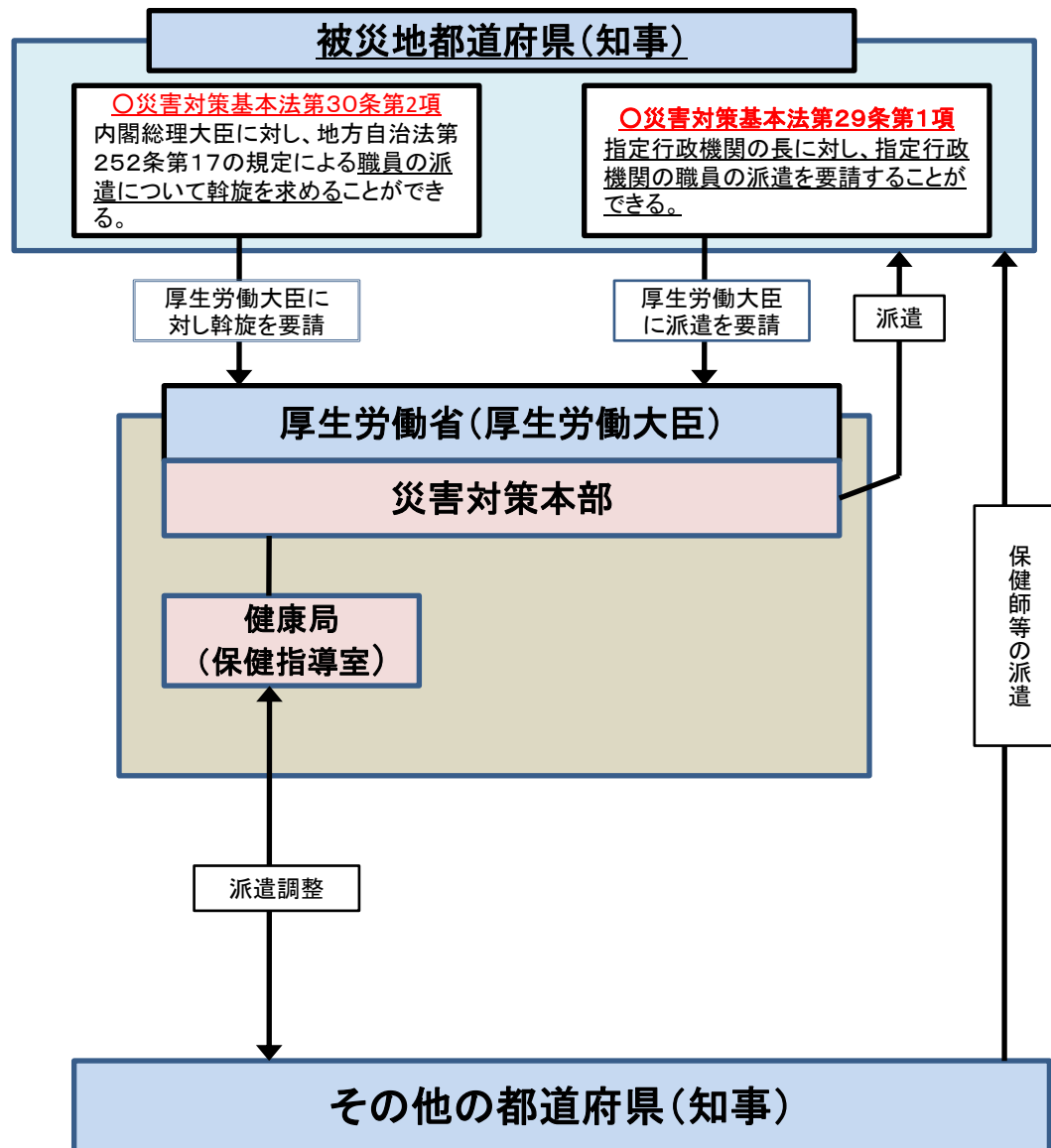
# 東日本大震災における 保健師の活動について

平成23年10月6日

厚生労働省健康局総務課保健指導室

室長 尾田 進

# 現在行っている被災地に対する保健師等の派遣の仕組み

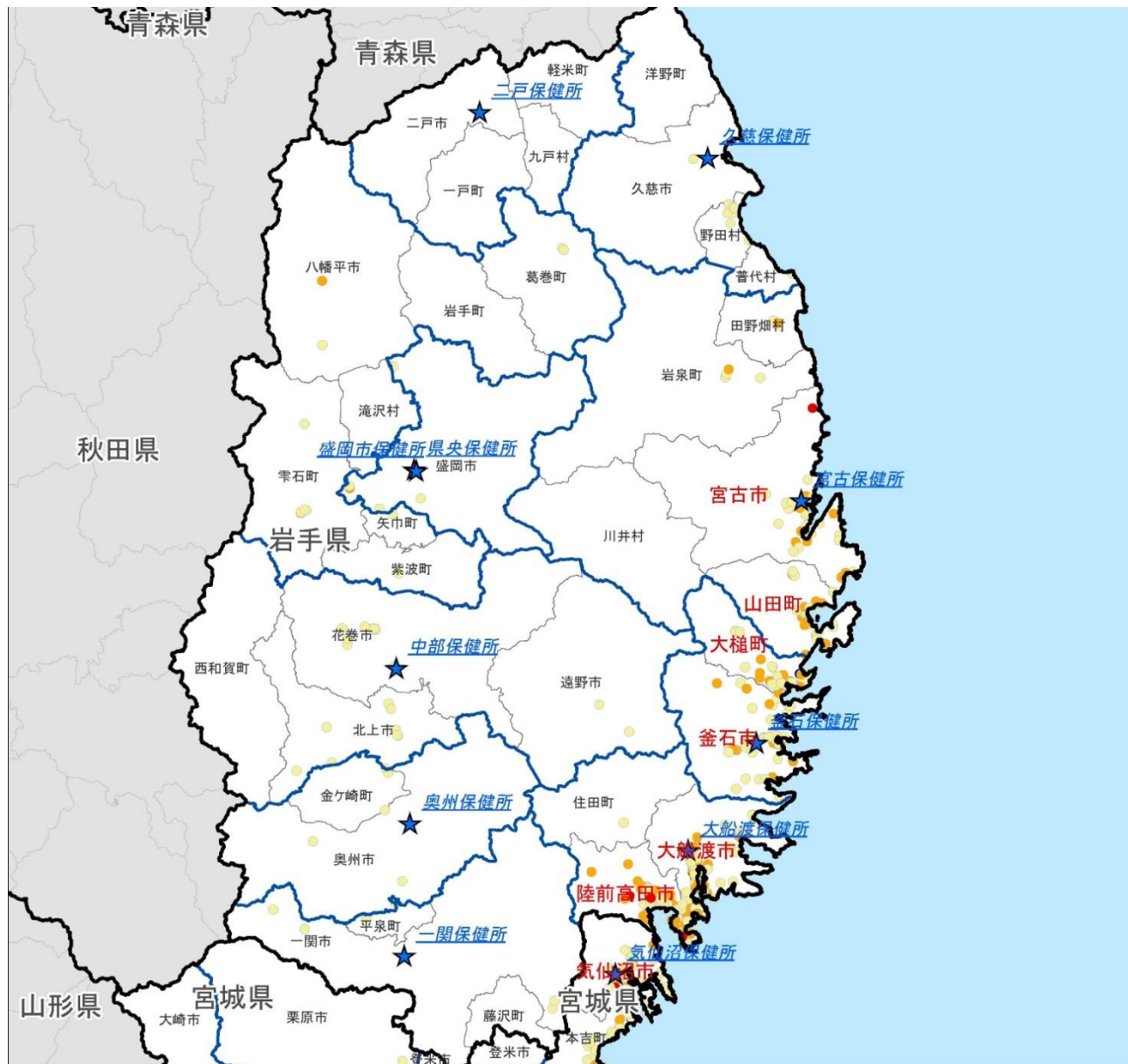


# 保健師等の派遣状況

## 1. 派遣の経過

- 岩手県、宮城県、福島県及び仙台市から災害対策基本法第30条に基づく地方自治体の保健師の斡旋要請を受け、各都道府県、保健所設置市及び特別区（以下、都道府県等）と派遣可能な保健師等について調整を開始（3月12日）
- 保健師等の派遣を開始（3月13日）
- 各都道府県等に、保健師等の追加派遣について照会（3月17日）
- 各都道府県等に、保健医療の有資格者（公衆衛生医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、歯科衛生士、管理栄養士など）の追加派遣について依頼（3月20日）
- 福島県知事から厚生労働大臣に対し、保健師等の派遣増員の要望があり、各都道府県等に、福島県内への保健師等の派遣について依頼（3月27日）  
厚生労働省自らも、3月29日から4月10日までに看護技官を累計6名派遣。
- 各都道府県等に、保健師、医師、管理栄養士等の派遣の増員と期間延長について協力依頼（4月13日）
- 各都道府県等に、保健師、医師、管理栄養士等の派遣の期間延長について協力依頼（6月1日）
- 各都道府県等に、保健師、医師、管理栄養士等の派遣の期間延長について協力依頼（8月12日）

# 保健師が活動した地域(岩手県)



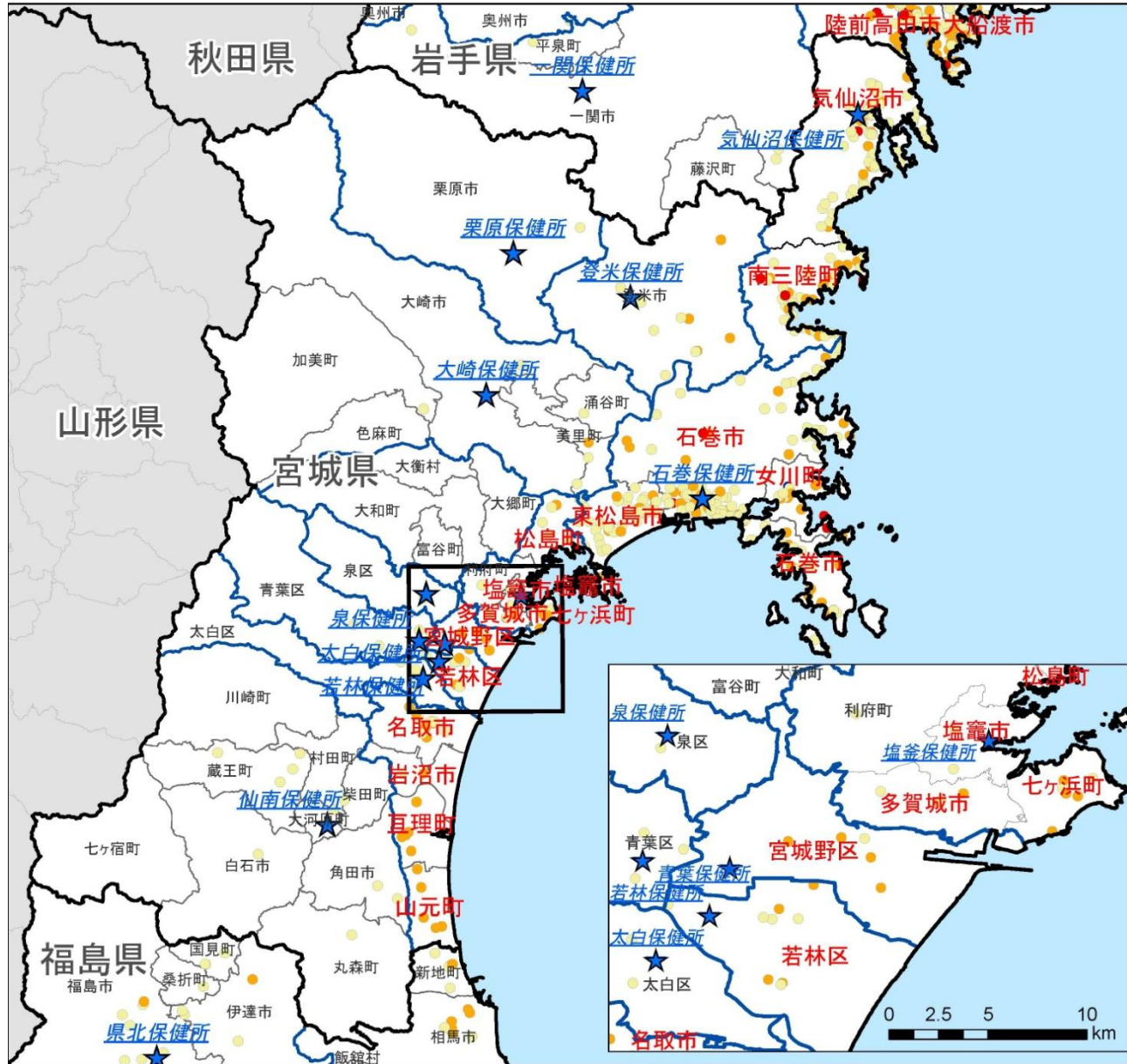
## 避難所 避難者数

- 1-99
- 100-499
- 500-999
- 1000-2300

0 5 10 20 30 40 km

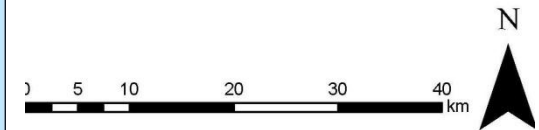


# 保健師が活動した地域(宮城県)

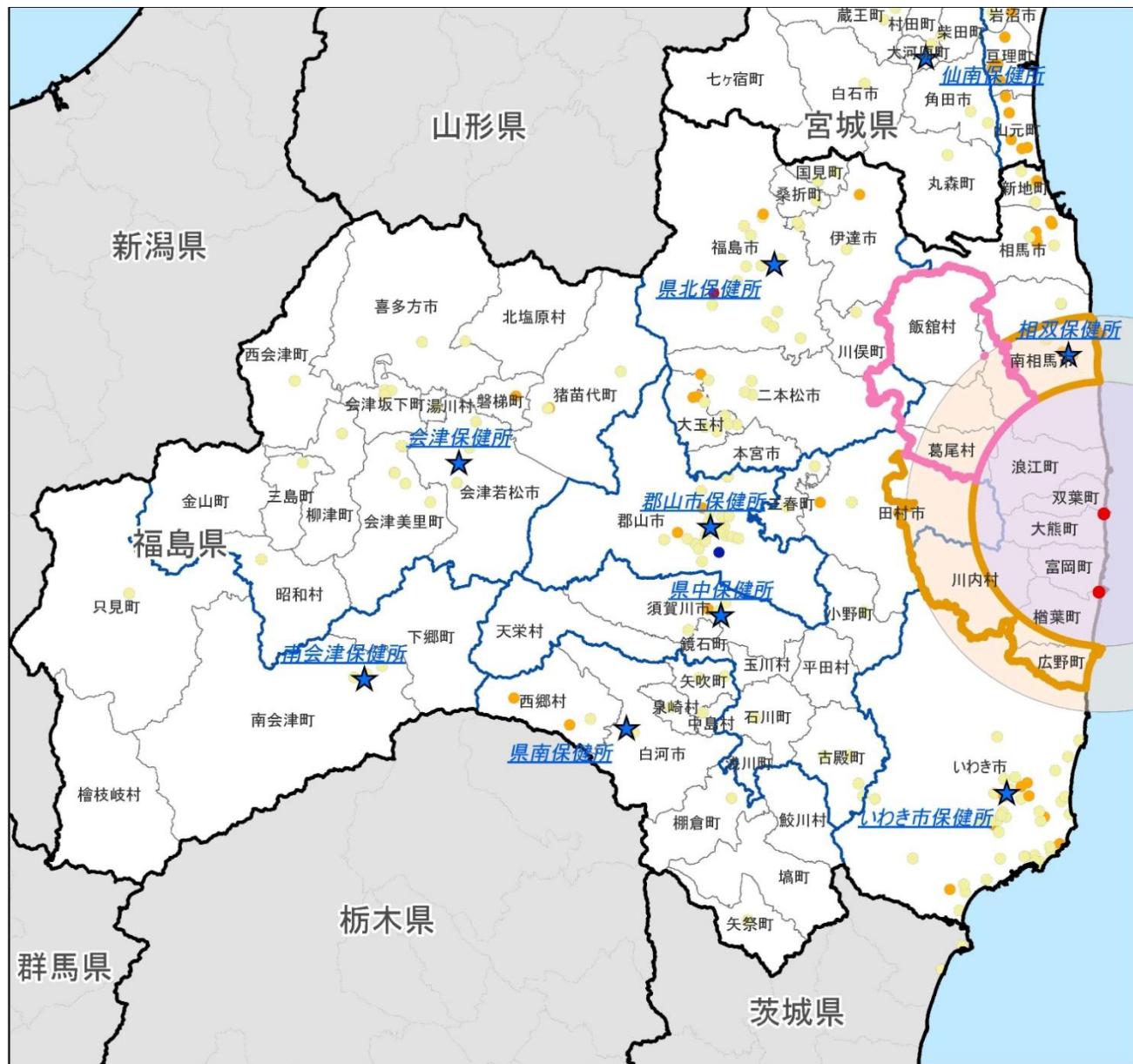


## 避難所 避難者数

- 1-99
- 100-499
- 500-999
- 1000-2300

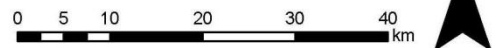


# 保健師が活動した地域(福島県)

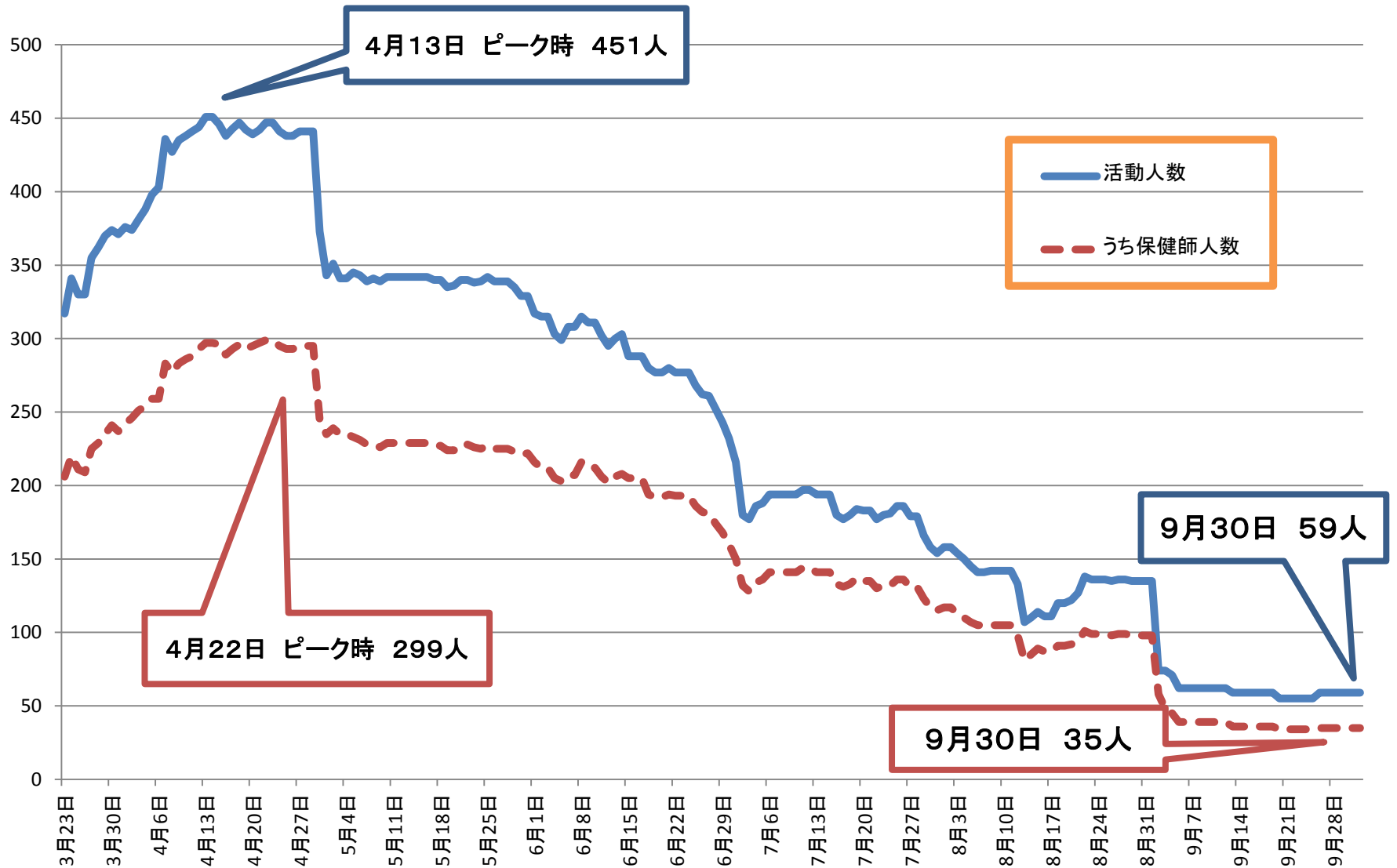


## 避難所 避難者数

- 1-99
- 100-499
- 500-999
- 1000-2300



# 保健師等派遣実績(9月30日現在)



# 今までの被災地への保健師派遣状況

	阪神・淡路大震災	新潟県中越沖大震災	新潟県中越沖地震	東日本大震災
発災状況	1995年1月17日 M7.3	2004年10月23日 M6.8	2007年7月16日 M6.8	2011年3月11日 M9.0
死者・行方不明者	6,402人	67人	11人	19,996人※1
最大避難者数	316,678人	103,000人	12,483人	368,739人※2
最大避難所数	1,153箇所	603箇所	116箇所	1,874箇所※3
派遣活動開始日	15日目～	4日目～	3日目～	3日目～
派遣投入保健所	12保健所	4保健所	1保健所	14保健所
派遣延べ人数	9,732人	5,585人	3,538人	—
活動期間	150日	61日	51日	—
1日あたり派遣者最 多者人数	115人 被災1ヶ月後	140人 被災27日目	119人 被災17日目	299人 被災42日目

出典: 奥田博子. 自然災害時における保健師の役割. J.Natl.Inst.Public Health,57(3).2008. p.216 、内閣府HPより

※1 9月6日現在の数 ※2 ※3 最大ではなく、被災1週間後の数



# 被災地における保健師の活動内容

- ① 避難所や仮設住宅を巡回しての健康管理・衛生管理
- ② 在宅要支援者等への家庭訪問
- ③ 乳幼児健診等の市町村の通常業務の再開に向けた支援

## 二次的な健康被害の予防

避難者の体温、血圧測定等を行いながら健康相談を実施し、エコミークラス症候群等の予防のための水分摂取や健康体操等の保健指導を実施。

高血圧、糖尿病等の慢性疾患患者の医療の確保や治療の継続を支援。

## 心の相談への対応

不眠やストレスを訴える避難者の把握や、精神障害者の継続的な治療等を支援。必要に応じて、心のケアチーム等と連携し、早期に専門的な対応につなぐ。

## 感染症や食中毒の予防

インフルエンザ等の感染症予防のために、手洗い、うがい、部屋の換気及びトイレ消毒等の保健指導や健康教育を実施。

## 福祉サービス等への連絡調整

支援を必要とする高齢者、障害者等に対する必要なケアの実施や、ニーズに応じて介護・福祉サービス、ボランティア等の支援につなぐための連絡や調整。

避難者の健康相談に応じながら、避難所におけるニーズを把握

## 関係者との支援体制の調整

避難所の自治会、現地職員等と情報を共有しながら、必要な支援体制について協議や助言を行う。

# 熱中症予防対策について

## ○「避難所における熱中症予防対策について」(平成23年5月26日事務連絡)を发出

- ◆ 新潟県中越沖地震における避難所での熱中症対策を参考に、具体的な対策例を示す
  - ・ 室内温度を適切に保つための環境整備（温度計による計測、大型扇風機の設置、遮熱・断熱塗料等の使用）
  - ・ こまめな水分補給が可能な体制整備（お茶や飲料水の備蓄・配布）
- ◆ 空調設備の設置経費については、災害救助法に基づく国庫経費となることを周知

## ○「避難所生活をすごされる方々の健康管理に関するガイドライン」(平成23年6月3日事務連絡)を作成し、避難所の管理者や支援者に配布

### 個別の健康管理

### 避難所における保健師活動

- 暑さへの適応力が弱い高齢者や乳幼児、また下痢や発熱、慢性疾患のある方等、熱中症になりやすい人については、熱中症の徴候がないか留意しながら健康管理を行う。  
【具体例】 厚着の方が多く、個別に衣服の調整を指導し、夏用のタオルケットを配布。

### 健康教育の実施

- 気温の上昇に伴う脱水症状を予防するため、こまめな水分摂取、屋外作業での留意点、熱中症の徴候に対する対応等について健康教育を実施する。  
【具体例】 派遣元の自治体でうちわを調達し、熱中症予防のための留意点を記入。派遣保健師が被災者の方々にうちわを配布し、熱中症予防について健康教育を実施。  
熱中症予防の啓発用の掲示物を、健康相談コーナーに掲示

### 環境整備

- 避難所の管理者と協力しながら、室内温度を適切に保ち、こまめな水分補給ができるような環境整備について助言する。  
【具体例】 県で避難所にスポーツドリンクの随時配布や水枕等を支給。  
大規模避難所20ヶ所に302台の大型扇風機を設置。  
網戸、扇風機、冷蔵庫を配置(一部手配中)

# 被災地における保健師活動について(夏場における活動①)

夏季を迎え、仮設住宅への入居にシフトして行く中、熱中症対策について重点的に取り組みながら、これまでの避難所における活動から、主として仮設住宅での健康調査や相談等の支援に移行している。

## 熱中症対策

- 暑さへの適応力が弱い高齢者や乳幼児、また下痢や発熱、慢性疾患のある方等、熱中症なりやすい人については、熱中症の徴候がないか留意しながら健康管理を行う。
- 気温の上昇に伴う脱水症状を予防するため、こまめな水分摂取、屋外作業での留意点、熱中症の徴候に対する対応等について健康教育を実施する。
- 避難所の管理者と協力しながら、室内温度を適切に保ち、こまめな水分補給ができるような環境整備について助言する。



避難所の管理者に環境整備について助言

仮設住宅を訪問し、熱中症予防のチラシと飲料水を渡して、予防方法を説明 →

避難所で水分摂取を促しながらの健康相談 →



クーラーの適温設定について説明

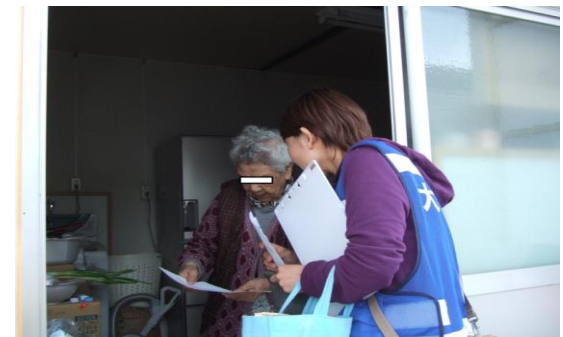
# 被災地における保健師活動について(夏場における活動②)

## 仮設住宅における健康相談

- 要支援者について、関係者と連携しながら支援を継続し、二次的な健康被害を予防する。
- 自宅と異なる居住環境で、高齢者や障害者等に生活上の問題がないか把握し、必要な調整を行う。
- 新たなコミュニティの中で不安はないか、PTSD、うつ等の問題が出現していないか把握し、必要に応じて専門機関につなぐ等、心のケアを継続する。



仮設の全戸訪問を実施し、健康状況を把握



高齢者の孤立化等にも留意しながら対応

## 保健事業の平常業務の支援

- 派遣保健師等が乳幼児健診等の市町村の平常業務に従事し、被災市町村の保健活動の立て直しを支援する。

- 避難所の水が不足しているため、トイレなどの衛生状態が悪く、手洗いやうがいができない状況の中で下痢、嘔吐など体調を崩している人が多い
- 健康面の訴えよりも被災したときの話をされるなど、うつ、パニック、不安神経症状、不眠を訴える人が増えつつある
- 高齢者や糖尿病、経管栄養、人工透析等個別に専門的な対応を必要とするケースも出てきている

避難所等の問題点

保健師活動の実際

岩手県	宮城県	福島県
<ul style="list-style-type: none"> <li>○水分不足等による便秘症、嘔吐・下痢の患者が増えてきている。(水やウエルパスがなく、汚い手でご飯を食べる)</li> <li>○上気道炎、インフルエンザ、水痘などの感染症、嘔吐、下痢をしている人が増加している。</li> <li>○被災時に海水、泥水を飲用したこと等により肺炎に罹患。</li> <li>○うつ、パニック、不安神経症状、不眠を訴える人が増えつつある。</li> <li>○健康面の訴えよりも被災したときの話をされる方が多い。</li> <li>○スタッフが不足していて認知症等の高齢者のケアに手が行き届かない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日中、自宅の片付け作業をしても水がなく、手を洗えない。</li> <li>○吐物が毛布に付着しても洗濯ができず、毛布を手放すと次の毛布が入手できないため吐物をハイター液で拭き取って汚れた毛布をそのまま使っている。</li> <li>○咳をしてもどの痛みを訴える方が目立つが、風邪薬やマスクが不足し、医薬品・衛生用品生活用品のすべてが不足している。</li> <li>○トイレの手洗水は小学生・中学生がプールからバケツリレーで運んでいて、自分たちでやれることをしている。</li> <li>○夜中にうなされる子ども、集団になじめない人、精神的に不安定な人も増えている。</li> <li>○高齢者や糖尿病、経管栄養、人工透析等個別に専門的対応を必要とするケースが出てきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティアの医師が入り、医療もかなり改善されてきた。</li> <li>○食事の影響もあるが、便秘の訴えが多い。</li> <li>○その他風邪気味、熱発等の訴えが多い。</li> <li>○被ばくスクリーニング検査を受けていないと受診拒否する医療機関もあったが、被ばくスクリーニング検査が18日から始まり、ほっとしたという声が聞かれる。</li> </ul>

- 室内換気、マスク着用やうがい・手指消毒の励行など感染症予防の指導と環境整備を実施。
- 車の中にいる方にも声かけしながら健康相談、定期的にラジオ体操を実施しながら、エコノミークラス症候群を予防。

<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難所を巡回し、医療が必要な人を巡回診療につなげる。</li> <li>○避難所以外の、周辺住宅を巡回訪問している。</li> <li>○認知症患者に対して専門医への受診や入院に付き添う。</li> <li>○抗がん剤投与が必要な患者の治療が継続できるよう主治医と連絡・調整を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難所を巡回し5ヶ所で150名程度の健康相談を実施している。</li> <li>○健康相談に避難者が殺到する状態で、訴えがために1人の対応に時間を要している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○比較的落ちついている避難所では、スムーズに健康相談を実施している。</li> <li>○自宅にいる住民(約11,000人)を対象に、巡回訪問によりニーズ調査を行う予定。</li> <li>○原発に関する不安などの思いを傾聴している。</li> </ul>
--	--	---

379避難所、約46,000人

777避難所、約113,000人

466避難所、約84,000人

- PTSDや家族等を亡くしたり、避難所生活の長期化に伴う精神的なストレスや不安等の心の問題が増加している。
- 高齢者の活動意欲の低下、うつ傾向、閉じこもり、認知症の進行、夜間せん妄がみられている。
- 慢性疾患を持つ方や要介護状態にある方など、個別支援を必要とするものが多い。

	岩手県	宮城県	福島県
避難所等の問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仮設住宅などへの移動も始まったが、一方で移動できない人たちの避難所生活の長期化によりストレスや不安が増大している。</li> <li>○避難所生活による生活不活発病がみられている。</li> <li>○高齢者の認知症、夜間せん妄などがみられている。</li> <li>○慢性疾患を持つ方等、個人での栄養バランス管理が困難な状況にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家族等を亡くしたり、PTSDなどの心の問題や長期化している避難所生活にストレスを感じている人や子どもがいる。</li> <li>○介護福祉サービスが再開できていない為、要介護状態の方への介護が不十分な状態にある。</li> <li>○高齢者における活動量の低下や自宅の片付けなどがによる腰痛の訴えが増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○PTSDや原発問題、二次避難所への移動等生活の見通しが立たないことによる不安を訴える方がいる。</li> <li>○環境の変化等により子どものストレスがある。また、乳幼児の予防接種等必要な情報が届いていない。</li> <li>○高齢者の活動意欲の低下、うつ傾向、閉じこもり、認知症の進行がみられる。</li> </ul>
保健師活動の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>○室内換気、マスク着用やうがい・手指消毒の励行など感染症予防の指導。</li> <li>○気温の上昇に伴う食中毒防止などの環境整備を実施。</li> <li>○PTSDなど心の問題を抱えている人や子どもたちを心のケアチームへ紹介。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ストレスや不安軽減のため、健康相談を行い、心のケアチームへの紹介や支援に係る情報交換を行っている。</li> <li>○生活不活発病予防の保健指導、体操、健康相談等を行っている。</li> <li>○高齢者の認知症等に対し健康相談を行い、必要時に専門医へ紹介している。</li> <li>○常駐職員の精神面・心理面の疲労が蓄積しているため、健康相談を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○PTSDなどで心の問題を抱えている方や子どもに対して、心のケアチームへ紹介している。</li> <li>○要介護状態の方が介護福祉サービスを再び受けられるように、ケアマネージャー等と支援計画について話し合いを行っている。</li> <li>○子どもの予防接種や健診の記録が津波で流され消失しているため、全戸訪問や避難所内を巡回時に確認作業をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○PTSDや先行きへの不安軽減のため、健康相談を行い、心のケアチームへの紹介やチームと支援に係る情報交換を行っている。</li> <li>○高齢者世帯の家庭訪問、仮設住宅訪問を行っている。</li> <li>○育児支援、子育てサロンを開設して支援する。</li> </ul>
	353避難所、約36,000人	402避難所、約33,000人	142避難所、約24,000人

- 夏季の健康問題として、害虫の発生による衛生管理、熱中症予防対策が新たな健康課題となっている。
- 蓄積された避難生活等による身体状況の悪化が顕在化してきている。
- 仮設住宅への入居等、新たな生活環境の変化による適応障害や認知症、アルコール依存等、心身の変化が生じてきている。

避難所等の問題点

保健師活動の実際

	岩手県	宮城県	福島県
避難所等の問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リモコンの使用方法がわからず、冷気が苦手なため、仮設住宅でエアコンをつけない高齢者がいる。</li> <li>○ハエが発生して食品衛生管理に問題がある</li> <li>○仮設住宅への入居が遅れているため不安が強い。</li> <li>○配給されたお菓子の摂取や、日中の活動の低下により、肥満、膝痛、胃炎などの症状が増加。</li> <li>○野菜不足の食事ため便秘傾向の人が増加。</li> <li>○医療チームが撤退するので服薬管理が課</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仮設住宅ではエアコンを利用している家は少なく、熱中症を発生する危険がある。仮設住宅では風通しも悪く室内は暑い。</li> <li>○家族を亡くす、PTSDなど心の問題を抱えていたり、長期避難所生活により、精神的・身体的疲労が蓄積している人や子どもがいる。</li> <li>○仮設住宅へ移行し、住民同士の交流が乏しく、新たな環境に慣れず、ストレスを感じている人がいる。</li> <li>○アルコール飲酒が増えている人が見られている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○放射線量の影響により二次三次避難が続いている。</li> <li>○宿泊施設に入ったことで二次的健康被害(ストレス、廃用症候群、認知症)の発生の可能性がある。</li> <li>○仮設住宅での、住民同士の交流が乏しく、も段差が多いなどバリアフリーではない居住環境から、閉じこもり傾向にある人がいる。</li> <li>○子どもが日中遊べる環境がない(家の中のみ)</li> </ul>
保健師活動の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>○暑さへの適応力が弱い高齢者や乳幼児、慢性疾患のある方等、熱中症になりやすい方には、その徴候に留意しながら健康管理。</li> <li>また、こまめな水分摂取や屋外作業の留意点等について、健康教育を実施。</li> <li>○閉じこもり予防の健康体操教室などを実施し、教室を通して住民同士の交流を図る。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○トイレ、出入り口に手洗いや食中毒に関するポスターを掲示する</li> <li>○熱中症予防として、仮設住宅の講話室で過ごすよう避難所の高齢者を促している。</li> <li>○ラジオ体操時に熱中症予防、食品の管理などの健康教育を実施。</li> <li>○仮設住宅に移り、避難所で話せなかった親族を亡くしたことの話等、精神的な訴えに傾聴する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仮設住宅を訪問し、熱中症予防についてパンフレットを配布し、エアコンの使用方法や水分補給について説明する。</li> <li>○心の問題を抱えている人や子どもに対して、心のケアチームへ紹介している。</li> <li>○避難所での要支援者への訪問をし、服薬管理や健康相談を行っている。</li> <li>○仮設住宅入居者への健康状況調査、心の健康について個別相談を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仮設住宅集会所で健康サロンを開催し、入居者通しの顔合わせ、情報交換の場、熱中症予防、食中毒予防の講話を実施する。</li> <li>○閉じこもり予防の健康体操教室などを実施。教室を通して住民同士の交流を図る。</li> <li>○仮設住宅入居者への健康状況調査、心の健康について個別相談を行っている。</li> </ul>
	1避難所、4人	154避難所、4,013人	313避難所、4,755人

# 被災地における保健師活動に関する 国会の質問

- 避難所の衛生状態を改善するとともに、避難所内の特に高齢者等の健康状態の把握を急ぐべきではないか (4月13日 参・厚労委)
  - 避難所の衛生状態についてどのように認識し、対応しているのか (7月19日 衆・内閣委)
  - せっかく助かった命が犠牲になることがないように、万全の対策を講ずるべきではないか (4月29日 衆・予算委)
  - 被災地における保健事業の再建のために保健師の増員が不可欠と考えるがいかがか (5月19日 参・厚労委)
  - 被災者のケアをする側の保健師へのメンタルケアはどうなっているか。 (7月29日 衆・内閣委)
- ※ 地域保健の分野で働く保健師の数が減っているが、ある程度の水準を保てるように配慮してもらえないか (8月3日 参・行監委)



# 平成23年度厚生労働省第三次補正予算(案)の主な要求項目

## I 東日本大震災に係る復興支援

### 第1 地域における暮らしの再生

2,333億円

#### 【被災者の健康確保】

被災者の方々の心とからだの健康を確保する。

#### 1 被災者の健康確保(介護基盤緊急整備等臨時特例基金の積み増し(被災県))

29億円

仮設住宅等での生活の長期化等による健康状態の悪化を防ぐため、以下の事業に対して財政支援を行う。

- ・仮設住宅への巡回保健指導、栄養、食生活指導
- ・潜在保健師等の活用による人材確保
- ・自治体等の関係者が集まる連絡協議会による健康支援策の策定など